

ICBA Newsletter

| | |
|-------------------------|-----|
| 第44回 ICBA 総会報告・鉄太さんを囲む会 | 1 |
| 第44回 ICBA 総会 | 2 |
| 鉄太さんを囲む会 | 3 |
| 新設文庫紹介 | 4~5 |
| 児童書専門店「教文館ナルニア国」紹介 | 6 |
| My Bookshelf | 7 |
| 国際児童文庫協会 | 8 |

国際児童文庫協会 ニュースレター No 75, December. 2014

文庫活動のヒントを考える

第44回 ICBA総会を開催しました



2014年6月30日(月)東京・青山東京ウイメンズプラザ視聴覚室にて第44回 ICBA 総会を開催しました。リトルインディアン文庫、ハンプティダンプティ文庫、マロニエ文庫、アルカンシェル文庫など国内で活動している文庫のメンバーの方々、OGの方々、サポートメンバーの方、海外文庫で活動されて帰国された方など多くの方の参加で、盛会のうちに今年度の総会を終りました。

後半は、ドキュメンタリーDVDを鑑賞し、その後グループに分かれて意見交換。最後には全体で意見をシェアしました。この初めての試みでは、これから文庫活動をしていく上で、多くの発見がありました。(報告 P2)



“楽しい活動と日本語が結びついていることがいいんです。”

2014年11月6日(木)東京・杉並区荻窪にある「かつら文庫」(公益財団法人東京子ども図書館分室)にて、「鉄太さんを囲む会」を開催しました。

当日は、文庫メンバーだけでなく、来日中のUK支部マネジャー森嶋瑤子さん、OG、サポート会員と様々な方の参加がありました。新刊『コアラのクリスマス』(福音館書店)の紹介から始まり、オーストラリアでのメルボルン子ども文庫の活動を、たくさんの方の写真を交えてお話ししていただきました。南半球の季節の違いを想像しながら、質疑応答の会話もはずみました。(報告 P3)



第44回総会の報告

第二部 ビデオを観て話そう! 「文庫活動のヒントを考える」

今回の総会では初の試みとして、2006年10月に放送されたNHKスペシャル「赤ちゃん 成長の不思議な道のり」という番組のDVDの一部〈より豊かな成長のためのヒント〉と〈人とのつながりが人を育てる〉を参加者で鑑賞し、その後はグループに分かれて、感じたことなどを気軽に話し合いました。また、話し合いの後には各グループの代表者が発表、全体で共有しました。



『赤ちゃん 成長の不思議な道のり』

販売元: NHK エンタープライズ

DVD 発売日: 2007/02/23

時間: 49 分

ASIN: B000L22SH0

EAN: 4988066154232

9カ月という、ちょうど外国語の聞き分け能力が失われていく時期に、英語ネイティブの赤ちゃんにビデオで中国語を話しかける方法と、実際に人間が中国語で話しかける方法で言語習得を比べる。結果、ビデオ学習はまったく学習していない状態と変わらないものだが、直接対面して話しかけられた赤ちゃんは中国語を理解した。

「学習には、社会的な人とのかかわりがとても重要であるということがわかった」というのが、クール教授の言葉。

みんなのコメントから

赤ちゃんは、そのままの愛らしさで人を惹きつけるが、本能的に、人とかかわることの大切さを知っているのではないかな。



1年生になって文庫に復活した下の娘は、生後1年間のフランス滞在後に帰国し、その後6歳のお兄ちゃんにくっついてマロニエ文庫におまけで参加していました。少しお休みしていましたが、ネイティブスタッフが娘に対して「他の帰国子女ではないお友だちに比べて、吸収の仕方や発音が全然違う。私たちが赤ちゃんの彼女に話しかけたのは役に立っていたこと」と大喜びしていたことを思い出しました。

ビデオの映像は、赤ちゃんにとってただの光の点滅でしかなく、映像の内容は経験があればこそ理解できるもの。



人との直接的なかかわり、やりとりが人を成長させる。コミュニケーションの大切さを感じた。仲間の大切さ。言語活動に必要な3つの間は「時間」「空間」「仲間」

この番組だけでは疑問が残るところもありますが、これまでの経験と照らし合わせたとき、思い出されることがあった人もいたようです。違う経験を持つ人の感想を聞くことで、それぞれに新たな発見があったのではないのでしょうか。今回初めて映像を通したワークショップを試みましたが、今後も興味深いテーマをメンバーの方々と共有していきたいと思っています。みなさんからの提案もお待ちしております。



尚、DVD内に出演しているパトリシア・クール教授の話は、TED「赤ちゃんは語学の天才」(The linguistic genius of babies)というタイトルで検索していただければ、視聴することができます。

鉄太さんを囲む会、かつら文庫にて開催

2014年11月6日(木)、オーストラリア・メルボルンこども文庫のリーダーである渡辺鉄太さんを囲んで、鉄太さんのお父様・渡辺茂男さんの仕事展が開催中のかつら文庫(荻窪)で、お話を聞く会を催しました。



アルバムの写真に、子どものころの鉄太さんを発見

かつら文庫を見学

かつら文庫は、1958年に子どもの本の翻訳家で児童文学者の石井桃子さんが作った家庭文庫です。現在でも毎週土曜日に文庫として開かれています。そのかつら文庫が今年3月、リニューアル・オープンし、「石井桃子さんのへや」「マップのへや」「公開書庫」「展示室」などの見学スペースが設けられました。「展示室」はギャラリー形式の部屋で「渡辺茂男さんの仕事」が展示されていました。まずは、現在管理されている東京子ども図書館のスタッフの方の案内で、見学しました。

知っていましたか

1997年のICBAニュースレターの巻頭言に、石井桃子さんが「その着実なご発展を願う」と題して文章を寄せてくださっています。それによると、ICBA創始者のダン夫人が20年前(1977年ごろでしょうか)にかつら文庫を訪ねたことがわかります。かつら文庫とICBAには、このようなご縁がありました。



石井さん自身の書き込みが残る本



「コアラのクリスマス」
渡辺鉄太/著
加藤チャコ/絵
福音館書店
2014年10月発行
ISBN978-4834081282

違いを知り、楽しむ心

会が、最新作「コアラのクリスマス」の制作秘話から始まると、これは南半球と北半球の違いを知る機会になる絵本とのことで、出席者の関心を集めました。自分の住んでいるところだけがすべてではない。同じICBAの文庫が違う季節にクリスマスのお祝いをしている。想像力を働かせるのにぴったりの本です。

文庫の敷居は低く

日本語だけ、とは決めずに

メルボルンこども文庫の活動についてうかがいました。鉄太さんは日本語で話しかけ、読み聞かせをするものの、特に文庫内で日本語を話さなければならないというルールは設けていないとのこと。メルボルンこども文庫の活動の特徴であるいろいろな活動(スープ作りや干しりんご作り、キャンプなど)を通してたくさんの方の日本語に触れることで、楽しい記憶とともに日本語を思い出せるのがいいですね。

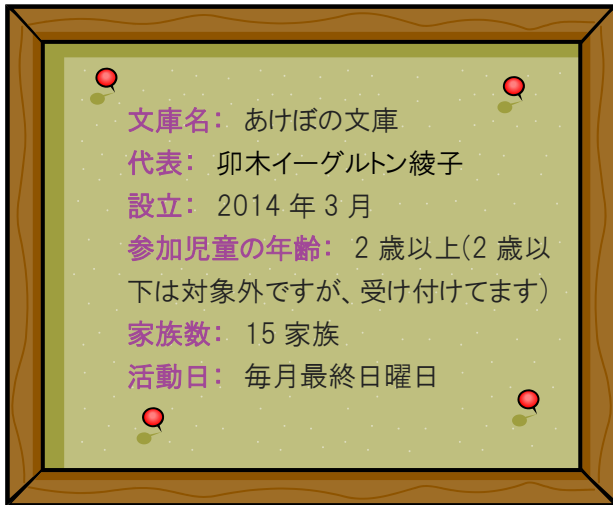


笑いが絶えず、あっという間に時間が過ぎました

Welcome to ICBA!



イギリス Hampshire・あけぼの文庫



活動内容: 本の読み聞かせや紙芝居のほか、ラジオ体操やテーマに沿った自己紹介、工作など子どもが「自分でやってみる活動」を組み込んでいます。翌月の行事や季節のお話を写真やイラストを使って説明したり、時期のおやつを組み込んだり、英国にいても日本の習慣に接する機会を作るように努力しています。現在では会員のお母さん方に当日の活動に協力いただき、みんなで文庫を作り上げていくようにしています。

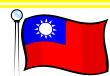


おかあさんと一緒に工作

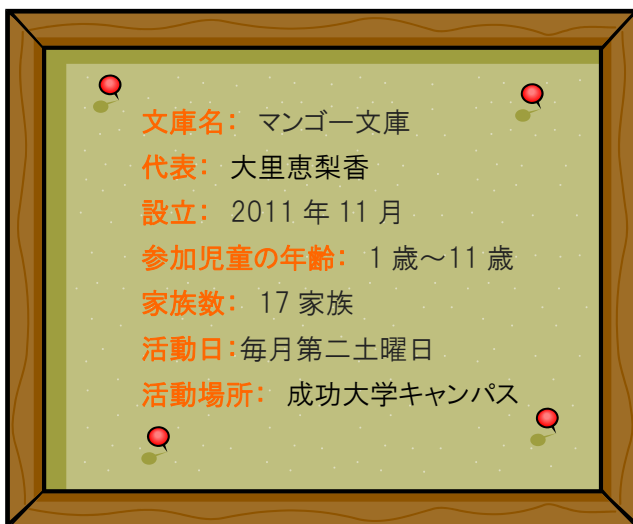
文庫の特徴・紹介・メッセージなど: まだ立ち上げて間もないのですが、ハンプシャーはロンドンなどと比べると日本人の数が少ないため今後は他の文庫さんたちと交流を持てたらと考えています。興味のある方がおられましたら是非ご連絡ください。

Akebono.bunko@gmail.com

歌詞の説明もちゃんと聞くよ



台湾 台南・マンゴー文庫



活動内容: 活動は、絵本の読み聞かせ、手遊びや歌、その後小学生組、幼稚園組、赤ちゃん組と分かれて工作やゲームを楽しんでいます。

季節に合わせた行事の紹介や遊びをなるべく取り入れ、日本語で話す機会を大切にしています。

文庫の特徴・紹介・メッセージなど: 台湾台南市に居住する日本人家族が集まったグループです。台南市の特産物であるマンゴーから名前を付けました。毎月沢山の絵本を読むと同時に小学生は少しずつひらがなを書く練習として読書カード(題名、どんなお話?、一言感想)を書いています。



広いキャンパスは、気持ちいいよ。




こんなイベントも開催しました!



カナダ Banff ・ グリズリー文庫

The official voice of ICBA

文庫名: グリズリー文庫 
代表: バーチェスカみどり
設立: 2014年5月
参加児童の年齢: 1~3歳
家族数: 7家族
活動日: 土曜日(1~2回)



お気に入りの絵本と一緒にニコリ!

活動内容: 現在は不定期に月1~2回、本の読み聞かせとお母さん達の交流を中心に試行錯誤しながら活動していますが、いずれ童謡やわらべうた、手遊び、日加両国の季節の行事などを取り入れながら、参加家族も増やしていく予定です。

文庫の特徴・紹介・メッセージなど: 雄大なカナディアンロッキーに抱かれた世界遺産の街バンフにて、有志6家族により立ち上がったグリズリー文庫です。

グリズリーベアなどの野生動物との共存がテーマの街で、日本人としてのルーツの芽が子ども達の心で育って行くのを見守ります。



スイス Bienne ・ スイスあずき文庫

文庫名: スイスあずき文庫
代表: 花岡和世
設立: 2014年9月
参加児童の年齢: 乳幼児~小学生(低・中学年)
家族数: 5家族
活動日: 子ども参加日(午後)、未就園児・保護者貸出日(午前)

活動内容: 「素敵な本との出会いを」を開設の趣旨として、読み聞かせの時間を対象年齢に合わせ、幼児、小学生ごとに行います。また、子どもたちの好きな本、保護者の思い出の本紹介など、本との出会いの扉を用意したいと思います

文庫の特徴・紹介・メッセージなど: 仏ヴェルサイユで始まった「あずき文庫」が、スイスでも「スイスあずき文庫」として開設。同じヨーロッパの文庫が、多岐にわたるバイリンガルの子どもの文庫活動・運営案を共有し、より良い環境が用意できますように。



←十三夜にちなみ、お月さまにこんな動物が見えたらいいな〜と、お月さまにちぎり絵で動物を貼りつけました。↓

←自分たちで選んだ絵本をお家から持って来て、お友だちに「おすすめ絵本ぼくのわたしの大好きな本」を紹介しあいました。紹介の後は、自分で読んだり、読んでもらったりして楽しみました。





銀座「教文館ナルニア国」をご存知でしょうか

母体である教文館は 1885 年（明治 18 年）にキリスト教の出版社と銀座の書店として創業しました。

「1998 年には 8 階にロングセラーを中心とした「子どもの本のみせナルニア国」を設け、2002 年には 6 階に過去 1 年間に出版された子どもの本が一覧できる「子どもの本新刊コーナー」を開設しました。そして 2004 年 3 月、二つのフロアを合わせ、6 階にロングセラーから新刊書まで約 15,000 冊を取り揃えた子どもの本の専門店をオープンいたしました。」教文館ホームページより引用（2014/11/24 アクセス）



2014 年夏、オリーブ文庫（ローマ）、そらまめ文庫（ボストン）とご一緒に

選び抜かれた本

ナルニア国の特徴は、なによりも選び抜かれた本が置かれていること。子どもたちに読み継がれたロングセラーを大事にされています。また、スタッフの方々が出版された本を実際に読んで、子どもに手渡すべきかどうかを判断されています。安心して選ぶことができる理由はこうしたスタッフの方々の尽力にあります。

ゆっくり本を選ぶことができる本屋さん

また、過去 1 年間に出版された子どもの本が実際に手にとって見られるのも特徴で、地方からも文庫や図書館の方がたくさん訪れます。書評などはネットで見ることはできますが、文字の大きさや量、絵の色、内容や文章の難易度などを実際に見て確かめてから購入できます。机や椅子が置かれ、スタッフの方は丁寧に相談にのってくれます。

ナルニア国ならではの催しもの

そして、子どもの本に関わる方の講演会、また朗読会、おはなし会、ブックトークの会、また原画展が数多く実施されています。著者、翻訳者、編集者など直接本に関わった方々のお話は、本の世界を広げ、深めてくれます。ナルニア国ならではのイベントが目白押しです。



2014 年 4 月のブックトークの会は、公益財団法人・伊藤忠記念財団で子ども文庫助事業を担当された柴田俊明さん訪ね歩いた日本全国の文庫のお話でした。

こんなナルニア国で、一時帰国された海外文庫の方々とお会いしています。日本に帰国されたときには、ぜひ訪ねてみてください。または、ご一緒しませんか。

利用された海外文庫の方から

スタッフの方が、本を読む子どもの年齢・性別を聞いてくださり、本の選び方を教えてくださいました。また、子どもたちだけでなく、子どもたちへの本の環境を作る大人のためにも、様々なイベントを用意して下さる「本への道しるべ」教文館ナルニア国です。



毎月行われている「パパの会」は午後 6 時半から始まるおとうさん、おじいちゃん、おじさんのためのおはなしかい

教文館ナルニア国 information

東京都中央区銀座 4 - 5 - 1 6F（通年）10:00~20:00
TEL: 03-3563-0730 FAX: 03-3561-7350
mail: narnia@kyobunkwan.co.jp
ナルニア国ホームページ <http://www.kyobunkwan.co.jp/narnia/>

『赤毛のアン』の翻訳者・村岡花子さんは教文館で編集をされていました。(3F) また白蓮さんの夫・宮崎龍介さんの法律事務所もこのビル内にあったそうです。

MY BOOKSHELF

このコーナーは、ICBAの仲間の本棚から、絵本だけでなく幅広い分野の本を紹介していきます。さて、気になった本はどれでしょうか？

自然と共に生きる子どもの姿は普遍です

『やまのこどもたち』岩波こどもの本

ISBN: 978-4001151169

石井桃子/著 深沢紅子/絵 岩波書店 1956年 950円(税込)

昔はこの村にも普通にあった、自然と共に生きる子どもたちの暮らし—就学前の小さな男の子(たけちゃん)と、その家族や近所の友だちの春夏秋冬を描いた絵本です。今では、多くの人が自然と切り離された環境で日々の生活送っています。そのため、大人はこの本を読むと「こんな古い話を子どもが楽しむだろうか」と、疑問に思うことでしょう。確かに、草木を使ったままごと遊びや木登り、家族そろって囲炉裏端で迎える年越しなど、事柄そのものは子どもたちが体験し得ないものです。それでも、春を迎えた素朴な歓びや、迷子になったときの心細さ、たけちゃんの子どものらしい意地の張り方

など、読んでいくと主人公に気持ちを添わせて楽しめる部分がたくさんあることに気がつきます。お話はちっとも古びていないのです。どうぞ、見た目や出版年の古さに躊躇せずに子どもたちに読んであげてください。物語の楽しさは必ず子どもたちに伝わります。姉妹編『やまのたけちゃん』も合わせて、読んでみてください。

(教文館ナルニア国店長 川辺陽子)

誰でももっている、心の中の嫌な部分と向き合ってみる

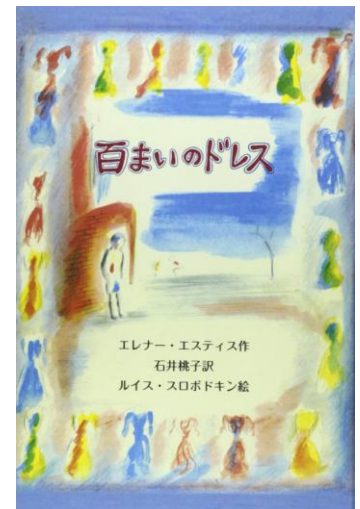
『百まいのドレス』

ISBN: 978-4001155792

エレナ・エスティス/著 ルイス・スロボトキン/絵 石井桃子/訳 岩波書店 2006年 1728円(税込)

ワダ・ペトロンスキーは貧しいポーランド移民の女の子で、いつも洗いざらしてしわだらけの青いワンピースを着ていました。そんなワダがある日、「うちの戸だなの中に、ドレスを百まいもっている」と言ったことから、クラスの人気者で美人のペギーが中心となって、ワダをからかう“百まいのドレスごっこ”が始まります。もちろんペギーに悪意はなく、見栄をはって嘘をついた(とみんなが思った)ワダをからかう遊びのつもりだったに違いありません。けれどもペギーの友だちのマデラインは、その環に加わりどうすることもできないまま、心の中にいやな思いを抱えていました。

この物語が描き出すいじめの様子は、70年も前に書かれたとは思えないほど現代の状況に通じています。それゆえマデラインが自分の行動と気持ちを丁寧にふり返り「二度と傍観者になるまい」と決意するところは胸に迫ります。この物語が多くの子どもたちに届き、マデラインの思いを共有してくれることを願っています。(教文館ナルニア国店長 川辺陽子)

**20カ国の言語に訳され、自閉症児を持つ親の勇気になりました**

『自閉症の僕が跳びはねる理由』

ISBN: 978-4900851382

東田直樹/著 エスコアール 2007年 1728円(税込)

自身も自閉症である著者が58の質問に答える形で、自閉症について語る。

なかでも、「自閉症についてどう思いますか？」の答えは中学生(当時)とは思えないほど思慮深い。またいずれも、どこか恥じらいというか、優しい心遣いを感じられる。20カ国語に翻訳され世界の自閉症児の親にとって救世主的存在となった一冊。

僕たちが存在するおかげで、世の中の人たちが、この地球にとって大切な何かを思い出してくれたら、僕たちは何となく嬉しいのです。P140(運営 海保由子)

International Children's Bunko Association

国際児童文庫協会は、

海外駐在、帰国、国際結婚、移住などによりバイリンガル・バイカルチュラルな環境に育つ子どもたちのための文庫開設や文庫活動を支援するボランティア団体です。
1979年の創立から35年間、活動を続けています。



IC Bunko
国際児童文庫は自主活動グループですが、文庫活動の可能性を信じる方、それに共感する世界中の仲間によって支えられています。そして未来の文庫を開設する“タネ”へとつながっています。

**ICBA 会員
募集!**

【ICBA 会員】

文庫メンバー1500円/年

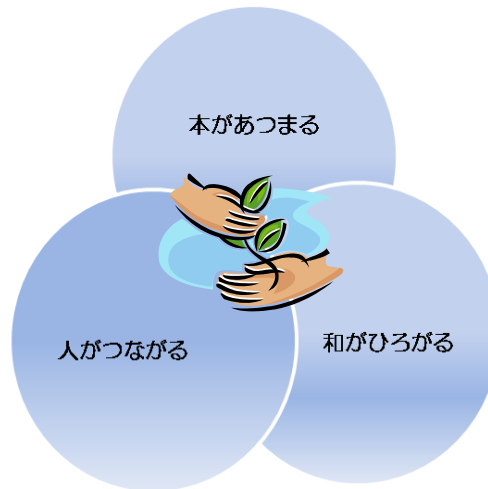
【サポート会員】

個人年会費 1500円

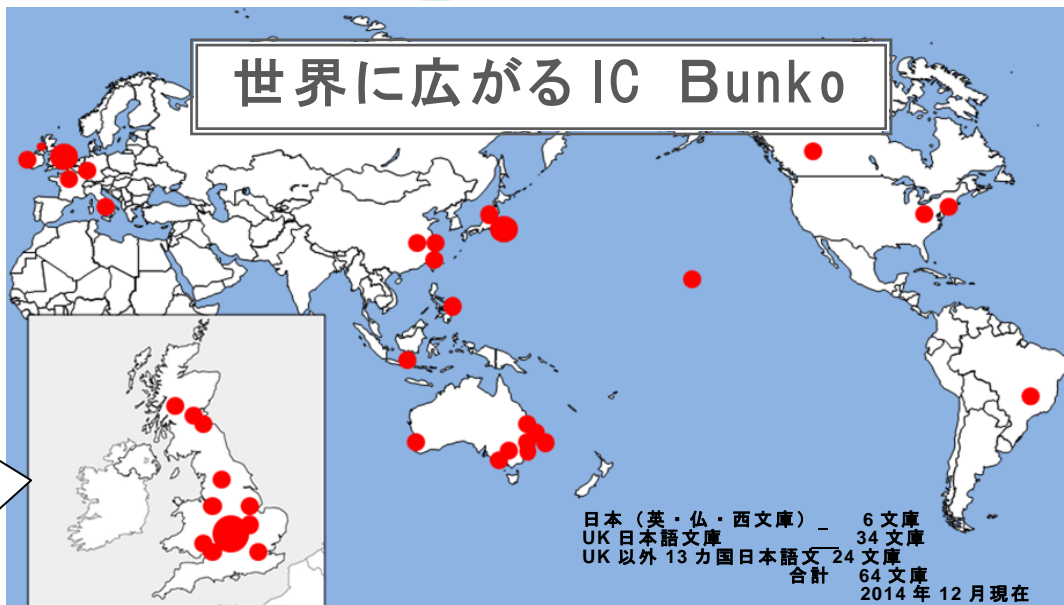
団体年会費 5000円

(一口)

*みなさまの会費によってICBAは運営され、また新たな文庫開設への支援となります。

ICBA の活動がめざすもの**支援活動例**

- * 文庫開設支援として
ウェルカムパック選書と送付
- * きのこブック送付
(=会費に応じた本の送付)
- * ホームページ管理運営、ニュースレター作成送付など
本の紹介、本の寄贈、助成に関する情報提供
- * 文庫運営の相談
- * 紀伊國屋書店、文庫 OG、個人の方々からご支援いただいています。

世界に広がる IC Bunko

詳しくは公式ウェブサイト→[http://www.icba-1979.org/IC 文庫/](http://www.icba-1979.org/IC文庫/)

国際児童文庫協会 (ICBA) への入会お申し込み・お問い合わせは

E-mail: icba@g00.itscom.net もしくは TEL/FAX: 045-903-1744

URL <http://www.icba-1979.org/>

郵便振替 00190-8-10437 or 三菱東京 UFJ 銀行 渋谷支店(普)6450386

口座名義はいずれも 国際児童文庫協会

ICBA Newsletter No.75 国際児童文庫協会ニュースレター 2014 年 12 月号

発行:丸山明栄 編集:海保由子 仁志田華子 協力:秋元七生





ICBA Newsletter

Vol.75, Dec. 2014



The 44th ICBA General Meeting was held on June 30th



The 44th ICBA General Meeting was held at Tokyo Women's Plaza in Aoyama Tokyo on June 30th. Members from Little Indian Bunko, Humpty Dumpty Bunko, Marronnier Bunko, Arc-en-ciel Bunko, former IC Bunko members, supporting members, and others who came back from overseas gathered in this annual meeting which was very meaningful. In the first half of the meeting we looked back and reported on 2013 activities and finance. In the second half, we tried

something new which was to watch a documentary video followed by group discussions. The video was from a television programme on the growth and communication of babies broadcast on NHK (From "Akachan -seichou no fushiginamichinori" EAN4988066154232). After the group discussions, 6 speakers from each group shared opinions and comments. The discussion led us to 2 points: direct (as opposed to indirect) contact is crucial to babies' growth and development; and communication (especially face to face communication) is an important medium for stimulation. Hearing the opinions of others' helped us discover new ideas for Bunko activities. The trial of this new initiative to introduce a video during the meeting went very well as a first time experience.

If you look for "**The linguistic genius of babies**" (by **Patricia Kuhl**) on TED.com, you will get a feel of the NHK program. Patricia Kuhl is co-director of the Institute for Brain and Learning Sciences at the University of Washington. Appearing in the NHK program, she says that social interaction is essential for a baby's learning process.



At the Katsura Bunko with Tetsuta Watanabe on November 6th

"Talk with Tetsuta" was held at Katsura Bunko in Ogikubo Tokyo on November 6th. Katsura Bunko was opened in 1958 by Momoko Ishii, children's book author and translator, who started the Bunko for her research. After she passed away in 2008, the bunko has been managed by Tokyo Children's Library. It was reopened following refurbishment in April 2013, and amongst other rooms, now has an exhibition space and a private book room housing the books written or translated by Momoko Ishii, as well as a section for books by Shigeo Watanabe, an author and translator of children's books who worked in the same period. At the time of our visit, there was a mini-exhibition "Shigeo Watanabe's work" in the exhibition space, and Tetsuta Watanabe, son of Shigeo Watanabe and leader of the Melbourne Kodomo Bunko, recalled episodes with his father and Momoko Ishii as we visited each room with a guide from Tokyo Children's Library. After the tour, Tetsuta Watanabe spoke about his latest book "The Koala's Christmas", a story about Christmas in Australia.

Many of us in attendance were interested in how the book highlights differences in cultures around the world. He then went on to introduce the activities of Melbourne Kodomo Bunko, and how they do not have a "Japanese only" rule but instead try to create many opportunities for children to come into contact with Japanese through fun activities such as cooking and camping, so that they are reminded of Japanese when they recall good memories.

A reminder of the historic link between Katsura Bunko and the ICBA can be found in the opening comment for a 1997 ICBA Newsletter, in which Momoko Ishii wrote of a visit by Mrs Dunn to Katsura Bunko in around 1977.



Tetsuta Watanabe introduced his book

Welcome to ICBA!



UK Hampshire • Akebono Bunko

Name: Akebono Bunko

Leader: Ayako Uki-Eagleton

Founding: April, 2014

Age: 2 years old+ (Under 2s also accepted)

Family: 15 families

Day & Time: Last Sunday of every month

Activities: Akebono Bunko incorporates lively activities including Radio Taiso (3mins exercise), self introduction with seasonal themes and craft making, as well as book reading and Kamishibai plays (picture show). We also emphasise traditional events and festivals, which are explained with pictures and illustrations and presented as a participative experiences (including foods). We strive to impart a genuine Japanese cultural experience to our children as much as possible despite their living outside the country. Recently, we have sought to delegate responsibilities of quite a few activities to our

members, so everyone contributes!

PR: As a group, this is our first experience running an organisation for children. Also located in Hampshire, there are relatively few Japanese families. That is why we would like to interact with other Bunko to share ideas or organise events together. If interested, please contact:

Akebono.bunko@gmail.com



Craft time is interactive and fun!



Once we understand the meaning of lyrics, we all sing the rhyme song!



台灣 台南 • 芒果文庫

Name: 芒果文庫

Leader: 大里惠梨香

Founding: 2011年11月19日

Age: 1歲~11歲

Families: 17 家族

Days & Time: 每月第二星期六

Venue: 成功大學校園

Activities: 利用附有繪畫文字的圖書為主進行相關的聽與讀的訓練，依照書本內容設計實施相關的遊戲及歌唱活動。

活動的進行前會依照年齡分成小學組，幼稚園組及嬰兒組共三組。活動設計也盡可能考量時



活動中能夠大量使用日本語進行對話，以提升自身日本語能力。

PR: 以居住在台灣台南市為主的日本人家族為主的活動。因為台南市最為人所知的特產是芒果，因此以此命名社團名稱。在每月的閱讀活動中，小學組的學員部分也會設計一些繪本內容相關的小讀卡，期許小學生在平假名部分的書寫能力能夠獲得提升。



寬廣的空間小朋友們可以無拘束地自由活動



小朋友最期待聖誕節活動

Welcome to ICBA!



Canada Banff • Grizzly Bunko

Name: Grizzly Bunko

Leader: Midori Barczewska

Founding: May, 2014

Age: 1~3 yr olds

Family: 7families

Day & Time: Saturday(1~2 a month)



Activities: We currently focus on reading Japanese books and offering opportunities for the moms to socialize once or twice a month, and are looking to adopt more of the Japanese nursery rhythms, traditional children's plays and the seasonal events both in Japan and Canada in course of time, hoping to have more families involved in our activities

PR: Our Grizzly Bunko has been established by 6 voluntary families in Banff which is one of the world heritage sites tucked in the magnificent Canadian Rockies. We wish to have our Japanese roots planted in our children's spirit being in a neighborhood which aims to have human beings co-habit with wildlife such as Grizzly Bears.



Can you sit still and listen to stories?



We meet at a local library



Everybody picked a favourite book.



Suisse Bienne • Azuki Bunko

Le nom : Suisse Azuki Bunko

Leader: Kazuyo Hanaoka

Founding: Septembre, 2014

Les jours pour les enfants scolaires
(fev/apr /jui/aut/oct/dec) 14 :00-16 :00

Les jours pour les enfants préscolaires
(jan/mar /mai/jun/sep/nov) 9 :00-11 :00

Activities & PR: Le but des séances est d'offrir aux enfants résidant à Bienne et dans les environs une rencontre avec le monde merveilleux de la littérature enfantine japonaise. Nous pratiquons la lecture à haute voix, nous racontons des histoires et présentons des livres que les enfants aiment et qui s'accordent avec les saisons et les fêtes de la culture japonaise.



Les enfants ont présenté leurs livres favoris.



"Quel animal souhaiteriez vous distinguer dans la pleine lune?"



"Voilà ! Ce sont nos animaux préférés !"



"Narnia Bookstore" one of the best bookstore for children in Tokyo

Kyobunkwan, the parent organization of Narnia-koku (Kyobunkwan Narnia Bookstore) is a Christian publishing house and bookstore founded in 1885 (its Ginza store opened in 1891). Narnia Bookstore opened in 1998 as a specialist bookstore of children's literature, and has been in its current location on the 6th floor of the Kyobunkwan building since 2004.

Book selection

All books sold at Narnia Bookstore are chosen by trained professional staff. They choose long-selling stories that are loved by many children, so buyers can be confident in the choices they make.

Kind assistance

Narnia Bookstore is a great place to select children's books. The store has tables and chairs so customers can take time over their book selections, and staff are on hand to listen to customer's needs and give advice.

Special Events

Narnia Bookstore hosts lectures by editors, authors and translators, as well as book readings, book-talks, storytelling, and displays of original illustrations and artworks.

*ICBA committee members often meet with overseas IC Bunko members at Narnia Bookstore, so please feel free to contact us.



Summer 2014,
Olive Bunko(Roma) and
Soramame Bunko(Boston)



April 2014, Book-talk
by Toshiaki Shibata
(former manager of ITOCHU Foundation)



Title:
Yama no Kodomotachi
Author: Momoko Ishii
Illustration:
Beniko Fukazawa
Publisher: Iwanami-shoten
(1956)
ISBN: 978-4001151169

My Bookshelf

Here are two book recommendations made by Mrs. Kawabe, Narnia-koku store manager, selected from the works of Momoko Ishii, distinguished author and translator of children's books.

Kyobunkwan Narnia bookstore

6F Kyobunkwan building, 4-5-1 Ginza,
Chuou-ku, Tokyo
Shop hours 10 : 00~20 : 00 Mon-Sun
TEL: 03-3563-0730 FAX: 03-3561-7350
mail: narnia@kyobunkwan.co.jp
<http://www.kyobunkwan.co.jp/narnia/>



Title: The Hundred Dresses
Author: Eleanor Estes
Illustration:
Louis Slobodkin
Translator: Momoko Ishii
Publisher:
Iwanami-shoten (2006)
ISBN: 978-4001155792

Tetsuta&Chaco's new book was published

"The Koala's Christmas"

Christmas comes in the summertime in Australia. One day Koala receives a letter from Santa Claus asking for help. Koala and his Australian animal friends; wombat, kangaroo and emu, get together to figure out how they will deliver presents to the children in Australia.

This picture book is a fun and enjoyable way to get an insight into different climates and cultures.



Japanese Title:
Koara no Kurisumasu
Author: Tetsuta Watanabe
Illustration: Chaco Kato
Publisher:
Fukuinkan-shoten
(10/2014)
ISBN978-4834081282